



## 第18回定時総会開催

當間新会長誕生 参加者110余名で盛大に開催

平成25年11月17日（日）午後2時より東村山駅西口2Fカンパネ・コンベンションホールで第18回東村山稲門会定時総会が開催されました。開催30分前から会員、来賓の方々が続々参集し会場は熱気に溢れ開会になりました。

総会は、池田孝副会長の司会で、冒頭に今年逝去した6名の会員に、全員で起立し黙祷を捧げ、会は式次第に従い小亀会長の挨拶と会則に基づく議長選出により始まりました。会長は、新しい会員が増える中、7年間に亘る先輩達の献身的努力により東村山稲門会が発展してきた経緯を説明され、今後とも早稲田の雰囲気を楽しんで欲しいとのご挨拶がありました。

平成24年度の活動報告は、當間副会長から今年から導入された新ホームページを活用し映像を交え、会の活発な活動を判り易く説明されました。平成24年度の会計報告は、滝来京子幹事より、総会、新年会、納涼会の3行事を含め、内容を詳しくした決算報告書により説明し、平成25年度の活動計画と予算案と共に承認されました。

続いて、2013年度の役員名簿案が上程され承認されました。新会長は、當間昭治さんが就任し、小亀前会長は相談役になりました。新役員として、現在ニュースを編集している當摩照夫さんが就任、会長1名、副会長6名、幹事22名、会計監査2名で、今後1年間運営して行きます。その後、新会長より、内部の活性化を計ると共に、東村山稲門会に入って良かったと言える会にしたいとの就任の挨拶があり、小亀前会長からは、会長就任中に多くの方々から大きなご協力を頂いたことに対する感謝のお言葉と、早稲田の卒業生はすごいとの感想を持ったとの退任のご挨拶がありました。出席した来賓のご紹介後、代表の早稲田大学理事宮内孝知様からご祝辞を頂き、第1部総会議事は無事終了しました。

第2部は、早稲田大学名誉教授山崎勝男様から「睡眠と健康」の講演が行われました。昨今は、睡眠時間が短くなっておりませんが、健康を維持するためには快い睡眠が重要であることを、新しい実験データに基づき説明されました。毎日決まった時間に起きる、起きたら太陽の光を浴びる、1時から2時頃仮眠をとる等などの対処法は、大変参考になり是非実践したい内容です。

第3部は、早稲田大学交響楽団OBによる弦楽四重奏です。早稲田交響楽団は100年の歴史があり、技術レベルの高い格調ある演奏に皆熱心に耳を傾けました。演奏曲目は、モーツァルトのディヴェルメント K-136、ボロディンの弦楽四重奏曲第2番より夜想曲、ドボルザーク弦楽四重奏曲第12番アメリカ、パッツヘルベルのカンでした。

参加の皆様の喉が乾いた頃、第4部の懇親会が、岡田一郎副会長の司会と内藤慎さんの乾杯の音頭で始まりました。会の初めに、近隣稲門会を代表して東京三多摩支部・支部長田原稔夫様より祝辞を頂きました。東村山稲門会は、温かみを感じられる会であり、新会長が新風を吹かせ、幸せになれる会になって下さいとの祝辞がありました。又、公務の忙しい中、参加して頂いた渡部尚市長からも祝辞を頂きました。渡部市長のご次男さんも、昨年早稲田の国際教養学部に入學し、小亀前会長から早稲田魂を教えて頂いたとのこと。来年4月に、東村山市は市政50周年を迎えるので皆様のご指導を受けて、市政を益々発展して行きたいとの抱負を述べられました。



110余名の熱気に包まれた賑やかで楽しい懇談の中、当会会員で北米ファーストピッチソフトボール協会（NAFA）に今年殿堂入りした吉村正さんに野球ユニフォーム姿で登場して頂き、7回ハワイの地区の予選を戦い、7回目でハワイ州の代表として NAFA の本戦に参加したエピソードをお話し頂きました。又、懇親会にはキルギスの留学生のご一家の参加、発足当時ご活躍され、現在体調崩されている木谷肇さんと小亀ご夫妻に感謝の意を込めて花束の贈呈も行われました。



懇親会も大いに盛り上がり、東村山稲門会の歌の作詞に貢献した井垣和太さんの音頭により、東村山稲門会の歌を合唱、続いて、小森敏孝さんの指揮の下、参加者全員で輪になって肩を組み、早稲田大学校歌を斉唱、福田昇七副会長の閉会のご挨拶でお開きになりました。今回の総会で発揮された熱意をバネに、當間新会長のもと会員の力を結集し、東村山稲門会が継続して発展し、会員が幸せを感じる会になること祈らずにはられません。

参加者 会員81名 会員同伴者5名 大学・市役所4名 近隣稲門会20名  
キルギス留学生一家4名 演奏者5名 計119名 (山本 岩男 記)

## 会長就任にあたって

當間 昭治



平成25年11月17日開催の第18回定時総会において、第5代目の会長に指名されました。身の引き締まる思いです。

振り返りますと、私の東村山稲門会会員としてのスタートは、平成8年11月の設立総会になります。小手指駅からバスで所沢キャンパスに行き、総会に出席したことは覚えていますが、議事の内容等はほとんど記憶にありません。当時51歳、現役のサラリーマンでしたので、その後の会の活動にはほとんど参加しませんでした。

本格的に会の運営に参画するきっかけになったのが、当時の山下会長ご指導のもと、「誕生会」を立ち上げたことです。第1回を平成17年10月8日に開催、参加者はお誕生の2名と会員12名の計14名でした。以後、会の定例行事としてすっかり定着し、最近の参加者は30名近くなることもあります。

各稲門会の共通の悩みは、会員の高齢化とそれに伴う会員の減少です。我が稲門会も前期は1年間で会員が5名減少し、191名となりました。新規会員の獲得には今期も注力していきますので、ロコミで当会をPRしていただき（ホームページを是非見ていただきたい）、減少に歯止めをかけたいと念じています。

会の活性化を図る意味では、既存会員に諸行事に一人でも多く参加いただき、新しい風を吹きこんでいただくことが必要です。いつも同じメンバーで同じ事の繰り返しでは、発展がありません。先程述べた「誕生会」は活性化に役立つ行事だと思いますので、是非今後とも内容を見直しながら継続したい。

我々には毎月発行しているニュースと、それを届ける「ポストパーソン」がいます。ポストパーソンは単にニュースを配布するだけではなく、3回に1回は会員に声をかけ、情報交換をする動きをお願いしたい。そして、「東村山稲門会に入って良かった」と会員一人一人が実感できる雰囲気作りをしたい。これが会長就任にあたっての目標です。

## 会長退任のご挨拶

小亀 輝雄



私は平成20年第13回総会で、三宅良太氏から会長のバトンを引き継ぎ、5年間会長を務めさせて頂きました。この間いたらない私を支えて頂いた役員および会員の皆さまのご支援・ご協力で何とか任務を全うさせて頂きました。東村山稲門会は平成8年に設立されましたので、私が会長を引き継いだ時点ですでに12年の歴史を築いていました。私は先人たちの歴史を受け継ぎ少しでも充実した、楽しい稲門会を作ろうと努力してまいりました。会員の増強など思うようにいかない点もありましたが、これまでの諸行事などはすべて継続でき、ホームページの再構築など一歩前進できた面もありました。これもひとえにご協力頂いた皆様のお蔭であり心から感謝申し上げます。

そしてこの度11月17日に行われた第18回総会で、當間昭治氏に会長を引き継いで頂きました。我が国では少子高齢社会が進み高齢者にとってますます厳しい時代になります。そういう中で稲門会の役割も大きくなってくると思います。當間新会長がお誕生会の席などで、稲門会も多少の問題もあるが、稲門会がなければ、こういう楽しい会も出来なかったし、そもそも私たちの出会いもなかった訳ですから、そういう点からも稲門会を大切に育てていきたいと話されていますが、私もその通りだと思います。今年の稲門祭のテーマは「早稲田のワ」でした。これからも早稲田で学んだ誇りと縁を大切に、早稲田の輪を広げ、當間新会長を中心に皆で協力して心の安らぎ得られるような暖かい会を作りたいと思います。私も応援団の一人と出来ることがあれば、これからも協力したいと思います。最後に総会の会員の皆様にあらためて心からの感謝を申し上げ退任のご挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。

## 新年会 新春を今年もサンパルネで！

新年のスタート「新年会」は、今年も東村山駅西口の「サンパルネ・コンベンションホール」で開催します。会員の皆様、ご家族揃って是非ご参加ください。

記

日時 平成26年1月18日(土) 午後5時～午後7時30分  
場所 サンパルネ・コンベンションホール  
(東村山駅西口 駅ビル2階 電話 395-5115)  
会費 4,000円(同伴者は2,000円)  
マンドリンの演奏 福引抽選会あり ご期待ください。

出欠の回答を、同封に葉書にて12月31日迄にお願いします。

(キャンセルの連絡は26年1月15日迄、それ以降は実費を負担いただきます。)

連絡先 事務局 大内一男 電話 393-6543

## 会からのお知らせ

### ○ 平成26年1月定例役員会

日時 1月11日(土) 14時～16時30分  
場所 市民センター 第4会議室

### ○ 退会

丸本 聡明さん (死去)

### 訃報

当会会員の丸本聡明さん(S31政経)は11月5日(火)逝去されました。

通夜は11月8日・葬儀は11月9日に国分寺の大宣寺で行われました。

心からご冥福をお祈りいたします。なお、会則により生花をお供えいたしました。

### ○ 住所変更

國友 良平さん

〒203-0032 東久留米市前沢1-5-4 (電話番号は変わらず)

### ○ 第84回 雑学講座 (映画会)

日時 平成25年 12月 14日(土) 15時～17時30分  
場所 サンパルネ 2F コンベンション ホール  
映画題目 「ローマの休日」



昨年の「ビルマの堅琴」に引き続き、第84回雑学講座は、映画会として、4回目を迎えました。2回 戦争を背景とした映画が続きましたので、今回はおとぎ話の様な、楽しい名画 オードリーヘップバーン主演の「ローマの休日」をご覧ください。1954年に公開されたこの映画は、今も尚 ベスト10指に入る心癒される、感動的名画です。(日本語版)

会員の皆様、そして市民の皆様 お誘い合わせの上、ぜひ ご来場下さい。(入場無料)

市川 彰彦(会員 昭和 36 文)

## ○ 他稲門会関係

|           |              |              |
|-----------|--------------|--------------|
| 11月24日(日) | 清瀬稲門会総会      | 當間会長・滝川副会長出席 |
| 11月29日(金) | 23区・三多摩支部会長会 | 當間会長出席       |
| 11月30日(土) | 小金井稲門会総会     | 當間会長・山本副会長出席 |

## ☆☆ 大学関連ニュース ☆☆

## ☆ 9月卒業式・入学式を挙行

早稲田大学の国際化を象徴する9月卒業式・入学式が挙行され、卒業式学位授与式では約500名の外国人留学生を含む1291名が新たな一步を踏み出しました。鎌田総長は、昨年11月に策定した「Waseda Vision 150」にふれ、「早稲田大学とともに、すべての人々が安全で幸福な生活を営むことのできる平和で豊かな社会実現のために、日々努力を重ねていくではありませんか」と激励した。一方入学式では学部生・大学院生843名が入学、鎌田総長は「さまざまな文化的背景を持ち、異なる価値観を持った人々が相互の理解を深め、自らの学識と人格を磨いていくことで、世界の平和と人類の幸福の実現に一步一步近づいていけるものと確信しています」と新入生への期待を述べました。

## ☆ 東京医科歯科大学と連携協定を締結

東京医科歯科大学と早稲田大学は、学術交流を通じて教育・研究のレベルを一層高めるとともに、グローバルな視点から相互に教育・研究活動などを行うため、広範な連携に向けた協定を締結した。

今後は、グローバルな人材育成に関するシンポジウムの開催や、学生イベントの共催・相互参加などの学生交流、ワークショップ・単位互換・共同授業などの教育関連や、研究面でも、医理工連携のほか東医大歯学系教員と早稲田大学工学系・スポーツ科学系教員との連携も検討していく予定です。

## ☆ 被災地支援のため、多くの学生が東北へ

東日本大震災から2年半、早稲田大学は「被災学生の就学支援」「研究を通じた復興支援」に並ぶ柱としてボランティアなどを中心とした「被災地域支援」を位置づけています。平山郁夫記念ボランティアセンターはその中核を担い、これまでに4000名を超える学生を東北に派遣してきた。今年度に入り、野球部が福島、岩手、宮城県の12高校に赴いて現地の高校生らに野球指導を、米式蹴球部53名がいわきでオリブ畑の整備に携わり、ア式蹴球部が陸前高田で「ワセダカップ」と銘うった大会を開催して少年たちと交流するなど体育6部約160名が東北へ。ほかにも、泥かき、瓦礫撤去、イベント運営支援、文化交流、学習支援等々ですでに6百数十名の学生が被災地でのボランティア活動に従事しました。活動を通じて多くを学び感じて戻った学生たちはいま、秋のキャンパスでそれぞれの課題を胸に勉学や課外活動に励んでいます。

## ☆ 三多摩支部大会開催

2013年度校友会三多摩支部の年次総会が、本年度は東大和。武蔵村山・羽村の3稲門会が幹事となり11月10日(日)大隈小講堂で開催された。三多摩26稲門会から約150名が参加した。本年度支部長の田原稔夫東大和稲門会会長から三多摩支部各稲門会の拡大発展を基本とし、より強いネットワークを構築し、母校早稲田大学の益々の発展のため、多少なりとも寄与できる稲門会を目指したいとの挨拶があった。その後鎌田総長から「vision 150」の実現のため努力したいとの力強い決意を述べられた。福田校友会代表幹事からも三多摩支部は校友会の中核的存在であり、今後とも大学・校友会に一層のご支援をお願いしたいとの挨拶があった。そのあと各稲門会から出された総長への質問(①大学ランキングの問題②慶応にいろいろな面で負けているのではないか③校歌を歌えない学生が増えている問題等)について総長から丁寧なお答があった。

第二部ではソニー株式会社 元代表取締役会長兼CEOの出井伸之 名誉博士から「世界から見た日本」という演題で講演が行われ参加者は熱心に聞き入っていた。第三部の懇親会は大隈ガーデンハウスで行われ、大勢の留学生も参加し懇親の輪が広がった。最後に次期主幹稲門会の武蔵野稲門会山内会長及び三鷹稲門会の亀谷会長から挨拶があり、校歌の大合唱で幕を閉じた。

当会からの出席者 青山稔・大内一男・岡田一郎・小亀輝雄  
高橋正夫・滝川桜子・福田昇七・山下邦康

(小亀 輝雄 記)

## ☆ eスクールが設立10周年記念式典

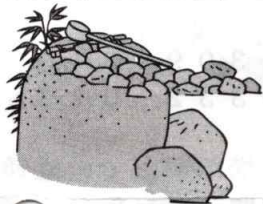
スクーリングを除くほとんどの授業をインターネット配信で行う日本初の通信教育課程・人間科学部eスクールは、2003年4月設立以来764名の卒業生を送り出しています。10周年を迎えた7月27日、所沢キャンパスでの記念式典には、教員や教育コーチをはじめとする大学関係者のほか卒業生、在校生が駆けつけました。式典では藤本正人所沢市長らの祝辞のあと、同スクール在学生の六代目花柳芳次郎さんが特別舞踊「連獅子」を披露した。

## 同好会だより

当会会員の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

## 俳句同好会 (稲酔会)

世話人 井垣 和太 TEL 04-2924-2934



「稲酔会」俳句会の、丸本北窓（聡明(としあき)）さんは、11月5日心不全で逝去されました。享年80才。同6日に通夜が行われ有志が参列、霊前に檜をお供えしてお別れをして参りました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

10月26日（土）日の70回俳句会が、我々との最後の交流となりました。これまで以上に念入りな選句をされ、句会後の会食でもいつものように、ビール

と好きな日本酒を呑みながら歓談し、8時頃に丸藤の玄関で左右にお別れしました。嫁がれたご長女のお話では、発見された時に10月29日からの新聞が玄関ポストに溜まっていたとのこと。

今思えば、句会の席上でもバランスを崩される場面があり、皆が心配して「気を付けて下さいよ。」と言っていたのですが、体調変化の兆候であったのかも知れません。「独り翁」の帰らぬ旅立ちとなっていました。

北窓さんは、1933年岡山県美作市出身。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。英米文学翻訳家で、多数のミステリー翻訳書があり、コラムニストとしてもご活躍。JASRAC（日本音楽著作権協会）にも関係され、同協会会報に8年間にわたってコラムを執筆されました。また、新聞学科同期生だった大橋巨泉氏との交流も深く、私達も句会の時によくお話をお聞きました。

稲酔俳句会には、平成15年に入会されてから10年間、含蓄のある外連味ない句風は、翻訳、コラム、エッセイストとして磨き上げられた言霊の霊妙な働きを感じさせるものがありました。

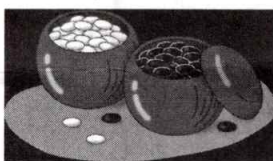
今頃は、一足先に逝かれた奥様や無二の親友で稲酔会の仲間小永井哲哉さんと「やあやあ来たよ。」と楽しく黄泉の語らいを楽しまれていることでしょう。合掌

次回第71回「稲酔会」忘年俳句会は、12月28日（土）に「丸藤」2階で開催いたします。

兼題は「数え日」です。（「もういくつ寝るとお正月」の心境を詠みましょう）

## 囲碁同好会

世話人 福田 晃 TEL 042-394-0593  
高鷲 近 042-394-2336



今年最後の「例会」を、下記の要領で行います。「例会」は、仲間と楽しく対局することを第一の目的としています。ぜひご参加ください。

日 時 …… 平成25年12月21日（土）、13:00 開始

場 所 …… 市民センター別館

つらいお知らせがあります。囲碁同好会の有力メンバーとして活躍されていた丸本聡明さんが11月5日、急逝されました。そのわずか半月ほど前に開催された東村山稲門会の囲碁大会には、お元気で参加されていただけに、驚きをおぼせません。いまはただご冥福をお祈りするだけです。合掌

## カラオケ同好会

世話人 内藤 慎 TEL 042-393-5071



11月9日例会を開催 寒さの中 5名のあつきメンバーが集まり 楽しく一夜を過しました いよいよ今年の最後がきました 1年の精進の歌を歌う場がきました。大いに歌いまくり賑やかな忘年会をたのしみましょう

|       |       |     |     |       |
|-------|-------|-----|-----|-------|
| 今後の予定 | 12月7日 | {土} | 19時 | カラオケ家 |
|       | 1月11日 | {土} | 19時 | カラオケ家 |

## 郷土史の会



世話人 高橋 正夫  
阿部 茂

TEL 042-309-3407  
042-332-0298

旧東村山5村の郷土史をたどる計画を立てておりますが、今回は久米川町、野口町に引き続く3回目で、10月18日に秋津町の歴史見て歩きを行いました。江藤さんが予め準備された資料に基づいて、高橋が案内役を務め、町内の旧跡をたどりしました。好天に恵まれ、秋の快適な半日を楽しむことができました。新秋津を起点に花見堂―秋津神社―淵の森―紅葉山跡―笹塚遺跡のあと―氷川神社―光あまねしの碑―地藏堂―柳瀬橋の馬頭観音・庚申塔とまわり、所沢駅に出て、昼食後の解散となりました。

参加者(敬称略): 阿部・池田・小亀夫妻・高橋・土橋・豊田・當間・守屋・吉田(たかぶみ)

## ウォーキングの会



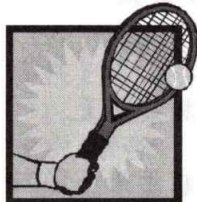
世話人 高橋 正夫  
阿部 茂

TEL 042-309-3407  
042-332-0298

雲ひとつない快晴に恵まれた11月24日、所沢駅から横浜駅までの直通電車を利用し、横浜にある三溪園を訪れました。明治の豪商、原三溪が造った名園だが、ガイドの案内で53,000坪もある広大な庭園を約一時間かけて見学、重要文化財指定の建物の説明も受けることができました。そのあと中華街に出て、全員テーブルを囲んで昼食を取ってから、中華街を散策して解散。各自また中華街からの所沢駅直通電車を利用して帰路につきました。

参加者(敬称略): 阿部・池田・市川夫人・大内・小亀・小菅・滝来・當間夫人・豊田・額田・山本・吉田・同夫人・高橋・同夫人

## テニス同好会



世話人 田島隆夫

TEL 042-396-7676

11月の例会は、11月20日(水)、13:00~15:00まで、久米川コートの3番にて行いました。久米川コートは土のコートなので、これからのシーズンは霜などの影響も受けますが、この日は晴天続きの中で比較的良い状態で出来ました。

参加者は8名といつもより多目なので、試合の合間の休憩も十分とりながらプレーすることが出来ました。来月はもう師走、休日でコートが確保できている日は限られていますが、その中で出来るだけ皆さんの都合の良い日に例会を実施したいと思います。

参加者(敬称略) 市川(彰)ご夫妻、小菅、滝来(京)、當間、戸田、野村(茂)、田島

## 音楽同好会

世話人 市川 彰彦

TEL 042-308-8181



音楽同好会にご参加いただいた皆様に本年度の活動状況を報告します。今年は3月、5月、9月、11月に例会を行いました。毎回16名から22名の出席を見ました。

歌う曲も20曲以上も用意しています。曲は主に「心の名歌集」と「小歌集1・2」から8割程選択し、その他はその時の話題になった曲 例えばやなせ・たかしの逝去を偲んで、「アンパンマン・マーチ」や「手のひらを太陽に」などを組上にあげてみました。来年春の例会は 季節に相応しいクラシックから演歌と幅広く曲を揃えます。

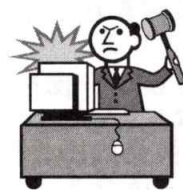
ご意見をお寄せください。

## パソコン同好会

世話人

小菅 宏  
福田 昇七

TEL 042-391-0219  
042-391-9726



A クラスは「年賀状の文面」を作成中です。最近の自分や家族の写真をハガキサイズの中に表示して、他に「題字」「あいさつ文」「イラスト」を自由に配置します。ご無沙汰している方々との「絆を深める」のに役立つことを目標に勉強しています。

B クラスは、「年賀状の宛名面」を作成中です。先ずエクセルで宛名に使用する住所録を作成しました。次にワードの差込印刷機能を利用して作成しておいた住所録の情報を年賀はがきに、次々と印刷することを勉強しています。当面の日程は「同好会等 短期予定表」でご確認ください。

## 園芸の会

世話人 當摩照夫・彰子 TEL 042-396-3033

園芸の会では10月24日に神代植物園散策会を開催しました。当日はあいにくの雨模様で、また藤澤リーダーが所要で参加されませんでした。秋バラ、ダリアなどを中心に秋の自然を満喫しました。帰りには深大寺そばと熱燗で大いに盛り上がり、交流を深めました。次回は来年1月24日（金）午後2時30分より市スポーツセンターにて、さくら草の芽とさぎ草球根の交換会を行います。皆様、ふるってご参加ください。



## ニュース編集7年間を振り返って 中村 眞弓 (S59文)

9月発行の198号が最後のニュース編集となった。平成18年12月発行の117号から編集を担当したので、実に7年近く編集作業に携わったことになる。三宅元会長から頼まれてさほど深く考えもせずに引き受け、そのまま月日を重ねてきたようだ。編集を交代してから2ヶ月近くが経ち、手元にある7年分のニュースと記憶をもとにこの間を振り返ってみることにする。

前任者の伊藤さんが既にパソコンでニュースを編集されており、そのデータを元に編集を始めた。ゼロからのスタートではなかったのも、その点では楽だった。また井垣さんからは「ニュースの基本形」に関する書面を受け取り、それも大いに参考になった。原稿数の関係からその通りにならないこともかなりあったが、ニュースは基本的にはその基本形にのっとり編集していた。

編集をスタートした117号は東村山稲門会設立10周年の記念講演「ボニージャックスと歌おう」があり、初めての編集作業で気合いを入れて、また緊張しながら行ったような気がする。

しばらくは編集に慣れなくて、完成までにかかなり時間がかかっていたが、最後の頃はスピードもあがりスイスイ仕上がるようになった。長く行えばそれなりに進歩もあるということだろう。ここ数年は行っていないが、平成19年から22年の4年間は号外として「新年ひとこと特集」も発行していた。新年会の出欠返信はがきのひとことメッセージをまとめたもので皆さんの新年の抱負などが語られており良かったように思う。

8面構成が基本のニュースで1回だけ12面で発行したのが122号だ。投稿欄を多く設けて充実した紙面となった。またニュースには時折訃報を載せる。今は亡き芦田さんにはお誕生会の報告などでお世話になった。あるときEメールが送れないとのことで、市役所で待ち合わせをして原稿を受け取ったことがある。懐かしい思い出だ。

編集で一番苦労したのはなんといっても紙面のレイアウト。基本形は決まっているがその時々で原稿数が違い、従って文字数も違ってくるのでその割り付けをどうするか。原稿数が少ない時より多い時の方がより大変だった。文字サイズを小さくしたりして何とか8ページに収まるようにする。特に同好会だよりでは各同好会の原稿文字数を数えてどのページに載せるかを毎回考えていた。従って同好会の記

を載せる順番もその都度変わってしまう。文字だけの紙面よりイラストや写真が入った方が変化があり面白みがある。内容に合うイラストをインターネットで探したこともあったが、大部分はソフトに付属のイラストを使っていた。同好会だよりのイラストも毎回同じでは作っている自分が飽きてしまい、時々変えてみたりした。ただ、同好会は常に同じイラストの方が良いとの意見もあった。イラストと同好会がいつも一致している方が分かり安いとのことだ。

7年近く毎月欠かさずニュースの編集をしてきたわけだが、幸い無事穴を空けずに発行することができた。風邪などを引いたときもあったが、ニュースの編集時期は病気のほうが避けてくれたのだろう。編集担当なのに編集局だよりを毎回書いていたのでもなく、半分以上書いてない年もあった。時節のことなど書こうと心掛けていたが、かなり個人的なことを書いていた時もあった。あとで振り返ってみると本人にはその時の出来事を思い出す良いきっかけとなり、これはこれで役得なのかもしれない。

ニュースがカラー印刷からモノクロに変わったのは7年間で大きな変化だ。当初は、現在編集を引き受けてくれている當摩照夫さんが印刷を行っていたが、平成22年12月発行の165号からコロニー印刷さんに外注することになり、カラーではなくなった。しかし現在でもホームページでカラーのニュースを閲覧できるので、そちらもぜひご覧頂きたい。

東村山稲門会の活動にとってニュースは欠かせないものであり、また会のとても貴重な財産でもある。今回振り返ってみて改めてその思いを強くした。ニュースも既に200号を突破し、その4割近くの編集を担当したことは私にとってまたとない経験だった。これからも途切れることなくニュースが発行され、何年か後の300号がどのような形になっているか楽しみにしている。

## 同好会等 短期予定表

| 同好会・行事      | 12月 |   |             |            |     | 1月 |   |             |            |     | 世話人<br>(問合せ先)    |
|-------------|-----|---|-------------|------------|-----|----|---|-------------|------------|-----|------------------|
|             | 日   | 曜 | 時間          | 場所         | 備考  | 日  | 曜 | 時間          | 場所         | 備考  |                  |
| ウォーキングの会    | —   | — | —           | —          | —   | 26 | 日 | *           | *          | —   | 高橋正 042-309-3407 |
| 郷土史の会       | —   | — | —           | —          | —   | —  | — | —           | —          | —   | 高橋正 042-309-3407 |
| テニス同好会      | 8   | 日 | 13:00~15:00 | 久米川コート3    | —   | 13 | 祝 | 9:00~11:00  | 運動公園A      | —   | 田島 042-396-7676  |
|             | 14  | 土 | 9:00~11:00  | 運動公園A      | 予備日 | 25 | 土 | 9:00~11:00  | 運動公園A      | 予備日 |                  |
| 囲碁同好会       | 21  | 土 | 13:00~      | 市民センター別館   | —   | —  | — | —           | —          | —   | 高鷺 042-394-2336  |
| カラオケ同好会     | 7   | 土 | 19:00~      | カラオケ家      | —   | 11 | 土 | 19:00~      | カラオケ家      | —   | 内藤 042-393-5071  |
| 園芸の会        | —   | — | —           | —          | —   | 24 | 金 | 14:30~16:30 | スポーツセンター   | —   | 當摩 042-396-3033  |
| 麻雀同好会       | 22  | 日 | 12:30~      | サロン「園」     | —   | —  | — | —           | —          | —   | 阿部 042-332-0298  |
| 音楽同好会       | —   | — | —           | —          | —   | —  | — | —           | —          | —   | 市川 042-308-8181  |
| 俳句同好会       | 28  | 土 | 14:00~      | 「丸藤」2階     | —   | —  | — | —           | —          | —   | 井垣 04-2924-2934  |
| ゴルフ同好会      | —   | — | —           | —          | —   | —  | — | —           | —          | —   | 紅松 042-393-6924  |
| 早稲田スポーツ広場の会 | 1   | 日 | 13:00       | 国立競技場千駄ヶ谷門 | 早明戦 | —  | — | —           | —          | —   | 大内 042-393-6543  |
| パソコン同好会     | 7   | 土 | 10:00~12:00 | シルバー人材センター | 勉強会 | 11 | 土 | 10:00~12:00 | シルバー人材センター | 勉強会 | 小菅 042-391-0219  |
|             | —   | — | —           | —          | —   | 11 | 土 | 13:00~15:00 | シルバー人材センター | 勉強会 |                  |
|             | —   | — | —           | —          | —   | 25 | 土 | 15:00~16:00 | シルバー人材センター | 相談会 |                  |
| 雑学講座        | 14  | 土 | 15:00~18:00 | サンパルネ      | 映画会 | —  | — | —           | —          | —   | 當間 042-391-6111  |

— : 対象月に開催予定無し \* : ニュース編集時点で未定。詳細は世話人にお問合せ下さい。

## 編集局だより

- 第18回定時総会が開催され、会長の交代が行われました。新会長のもと、東村山稲門会のさらなる発展にみんなでがんばりましょう。
- 今回も定時総会関連の記事もあり、たくさんの原稿が集まり、どうしても文字サイズを下げざるを得ないところや、掲載できなかった原稿も出ました。もっと、写真も多く取り入れて臨場感をお伝えしたいのですが、これもうれしい悲鳴です。
- 次号の締め切りは12月21日(土)です。よろしく願いいたします。(當摩 照夫)

Fax : 042-396-5698 email : teruo\_tohma@ozzio.jp

## 俳壇

遺句 故丸本 北窓  
 長き夜や翁庵に独り言つ  
 初時雨洋酒の喉を刺激して 菊田 一平  
 もうすでに呂律怪しく酉の町  
 焼鳥の煙がホームへキオスクへ 幸田 瑞雄  
 もう句評聞けぬ寒夜の五日月  
 夫々に処得て咲く石菫と菊 小亀 稻生  
 喜寿と古希老々夫婦秋深し  
 木の葉散る学徒出陣碑のありて 高部 糸行  
 秋の空飛行機頭上過ぎて音  
 葉裏から逆光で見る紅葉かな 戸田 泉  
 嵐去り富士の高嶺のすがしさよ 内藤 慎  
 白き富士威風堂々座り居り  
 水面冷え淀みの淵に枯葉舞う  
 背を丸め底冷えの夜の赤提灯 八木 竜湖  
 栗飯の栗のみ食べて出る子かな  
 年忘れ妻の艶めき男舞 山下 波雲  
 北窓を塞ぐはつらき別れかな  
 冬ざれを詠みても温き君なりし 栗島 三郎  
 道の辺の地蔵に供花の黄菊かな  
 紅葉の落ちなんとする風情かな 井垣 稻雀  
 凍て風の叩き続ける北の窓  
 北窓と哲哉あの世で年忘れ 出田 麦穂  
 時雨るるや句友の計報届きたり  
 ひそやかに過ぐす余生や枇杷の花